

全道下の句歌留多苦小牧大会 審判の手引き

はじめに

苦小牧大会における審判の役割は非常に重要です。特に円滑な進行のためには、審判の皆様の積極的な行動がなければ成り立ちません。また、待ったやポジション移動の回数の記録などの業務があります。ここに「審判の手引き」として審判の心構えや試合運営の方法をまとめましたのでご確認願います。

また、審判確保の視点から、試合のない選手の皆様には主催者より審判についてもらうことをお願いしますので、ご協力をお願いします。

1 主審・副審共通の業務

(1) 競技の判定

「あがり」「はいり」「お手付き」について、相互の意見により合意ができない場合は速やかに審判の判定に委ねること（全日本下の句歌留多競技規程(以下「競技規程」とする。)第3章5項）とあることから、審判は問答が続く場合は「審判に聞いてください」と選手に促すこと。

(2) 作戦的「待った」を的確にとらせる

送り札や持ち札について協議または長考する場合は、「待ったですか?」「待ったをとってください!」と待ったをとることを促す。

※5枚、3枚切れなど、ある程度時間がかかるときは、審判が適切に必要な間合いをとってください。

※1回の「待った」は概ね1分以内としています（開催要項9－(2)）が、計測の必要はありません。ただし、概ね1分を超えるような場合は、審判の裁量で再開を促してください。

(3) 選手の持ち札枚数の確認

中堅、突きは守備の持ち札枚数を超えて札を持つことはできない。ただし、いずれかのチームが5枚切れした以降は両チームとも適用しない（競技規程第2章7項）とあることから、持ち札が規程に反している場合は、審判は指摘の上是正させること。

~~-(4) 2場所及び1場所になったときの選手移動~~

~~—— 2場所になるときに抜けた「中堅」の選手が「守備」または「突」の選手と交代することや、1場所になるときに抜けた選手が1場所のポジションにつく場合は、ポジション交代として数えない(全道子どもカルタ大会ルールと同じ考えです。)~~

~~—— ただし、抜けた選手以外のポジション交代や再開した後に抜けた選手との交代は、ポジション交代として数える。(競技規程第6章にあることから削除)~~

2 主審の業務

(1) 「待った」「返し」を知らせる旗の上げ下げ

「待った」を知らせる旗を赤旗とし、読み終わるたびに必ず赤旗を上げ、札の整頓、送り札が整った間合いで赤旗を下ろす。また、「返し」の場合は白旗を上げる。

~~※読み終わった際は必ず旗を上げてください。すべてのシートの旗が下ろされたら読みが始まります。~~

(2) 試合中に怪我や体調不良で選手交代が必要となった場合の対応

試合中に怪我や体調不良で選手交代の必要が生じた場合は、直ちに主催者へ状況を伝えること。控え選手がいる場合は、主催者において交代を認める。尚、発熱(37.5℃以上)により試合中に交代した選手は、試合当日の残りすべての試合に再び出場することはできない。(規程第3条7)

(3) 選手の遅延行為の報告

選手に故意に試合進行を妨げ、遅延させる行為が見られた場合は速やかに主催者へ報告すること。
※具体的には、「選手間の問答を延々と続ける」「作戦協議的なことをする際に待ったをとらない」「審判が待ったをとるように促しても待ったをとらないで協議を続ける」などが考えられ^る。

4 副審の業務

(1) 出場選手の確認

オーダー用紙にて試合をするチーム名と出場選手を確認し、記録用紙にチーム名を記入する。また、主審・副審の所属氏名を記録すること。

(2) 「待った」「選手移動」の回数の記録

記録用紙のチェック欄に「待った」「選手移動」が行われるたびにチェックを入れる。また、選手の回数確認に対し、記録に基づき回答すること。

(3) 勝敗確定時の札の差枚数の記録

予選リーグで勝敗数が同数となった場合は、各試合の札の差枚数の合計によって順位を決定するため、勝敗が決した際の札の差枚数を記録する。

(4) 急な「待った」の伝達

副審は「待った」「返し」の旗は持たないが、必要に応じ手を挙げ、発声するなどにより主審または読み手に伝えること。